

親子で学ぶ情報モラル

岐阜県山形市立富岡小学校 教諭 埴岡 靖司

hanioka@ha.shotoku.ac.jp http://www.ha.shotoku.ac.jp/~tes/

キーワード：小学校，情報モラル，インターネット，電子メール，掲示板，携帯電話，特別活動

1. はじめに

「先生、この前の合宿応援ページの掲示板に名前を書き込んでしまったのですが、メールアドレスや個人情報は広がりませんか。」という保護者からのメールが届いた。学校からの情報にもかかわらず、社会を取り巻く環境から不安になったのである。情報関係についても、家庭では保護者が指導者となるはずであるが、保護者の多くは知識のなさや急速に進む情報化の中で児童への対応に不安を持っている。反面、保護者間では手軽に携帯電話を使ったメールをやりとりしている。学校—家庭との学びの連続を考えた場合、家庭で指導していく保護者の情報モラルを育てていく必要があると考え、本実践を企画した。

2. 実践について

実践は小学校5年生を対象に行った。

2. 1 「情報モラルに対する意識調査」

情報機器の操作経験、情報機器への意識、情報機器の活用方法、伝達メディアの実態と意識、コミュニケーションの方法について質問紙法による調査を行った。その結果、家庭でのコンピュータ利用は調べ学習のための資料収集や教材プリントの印刷が主であった。家庭でコンピュータを使う時に誰かがいる割合が57%、使う時に約束がある割合が17%であった。利用経験では、学校の授業で利用しているweb閲覧は100%であるが、電子メール利用については11%にとどまることが分かった。物事を伝達する手段は電話が53%である。調査結果の詳細は、当日報告する。

また、質問紙法を行ったことで、学校で情報モラルの実践を進めるのに必要な調査内容の選定ができた。

2. 2 「情報モラルにかかわる授業」

特別活動の指導計画に、情報モラルに関係する内容を年間3時間（各学期に1時間）位置付けて実践した。

	題材名	ねらい	評価規準
1	情報活用を正しく進めよう ＝6月＝	情報の先には、人がいることを絶えず意識して情報を活用できるようにする。	書く相手を意識して、新聞作りを進めたいという気持ちをもてたか。（発言内容）
2	情報モラルについて理解を深めよう ＝11月＝	学校でのモラル指導の必要性を述べる記事をもとに、学校で情報モラルの指導を行う必要があるかないかを考え、情報モラルへの意識を高める。	情報モラルの授業に対して、根拠をもって自分の意見を述べることができたか。（プリント）
3	情報モラルについて、理解を深めよう② ＝1月＝	情報を取り巻く様々な問題について知り、相手を意識する気持ちを高める。（web教材の利用）	情報を取り巻く諸問題に、根拠をもって考えることができたか。（プリント）

第1回の授業は、情報を発信する上での注意事項を朝の会で指導した。第2回は、学校での情報モラルの指導の必要性を述べている新聞投稿記事をもとに、意見交流を行った。その結果、難しい問題だから学校での指導が必要と考える意見と、家庭での問題だから各家庭が指導すればよいと考える意見に別れた。第3回では、web教材を準備し、授業参観の時間を利用して親子で議論する授業を行った。Web教材は、コンピュータ、携帯電話の両方に対応するように、議論のきっかけになる話題として、「ネット中毒」「誤送信」「なりすまし」「著作物の貸し借り」「違法コピー」の5つの話題を提供した。

3. 考察

授業参観で情報モラルの授業を取り上げたことで、各家庭での保護者の意識が変わってきた。授業では、児童と共に話し合いに参加する姿があった。また、当日活用したWebページが携帯サイトで使えることを伝えたところ、授業後に再度閲覧して話し合った家庭があった。携帯電話を活用するとわざわざコンピュータを立ち上げる必要がないため、手軽に振り返ることができたようである。日常的にモラルのサイトを活用できるようにするために、掲示板を準備したが、活用が進まなかった。これは、情報発信の必然性をもつ活動が計画できなかったこと、コミュニケーションのツールとして掲示板が必要なかったことが考えられる。

4. おわりに

情報モラルを直接指導するのはやはり各家庭である。今後も、各家庭で手軽に話題にできる場の提供ができるツールとしてのWebサイトを利用した授業の在り方を考えていきたい。